

令和5年度第1回東日本大震災津波伝承館運営協議会の開催結果

日時：令和5年6月13日（火） 13時15分～15時15分
場所：国営追悼・祈念施設管理棟 セミナールーム

1 開 会

齋藤事業課長が開会を宣言した。

2 澤田副館長挨拶

副館長の澤田と申します。本年4月に就任いたしました。昨年度は、復興推進課総括課長として当運営協議会に出席しましたが、引き続きよろしくお願いたします。

委員の皆様におかれましては、本日は、御多用のところ、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から当館の運営に御理解、御協力をいただいていることに対し、厚く御礼申し上げます。

お陰様で、当館は、令和元年9月の開館以来、着実に来館者数を伸ばしており、4月11日に70万人を達成し、今日現在で75万2千人余りとなっております。今年のゴールデンウィーク期間は、最後の2日間が雨天だったにもかかわらず、1日平均来館者数が昨年を上回る1,846人となり、5月4日には過去最高の3,513人を記録しました。さらに、今月3日には、「第73回全国植樹祭」出席のため御来県された天皇皇后両陛下に御視察いただき、「素晴らしい展示内容であり、これからも国内外の多くの方を迎えてください」という趣旨のお言葉を頂戴したところであり、来週火曜日、20日には、三笠宮家の彬子女王殿下にも御視察いただく予定となっております。新型コロナウイルス感染症の位置付けが、5月8日から「5類」に移行された中であって、安心して御来館いただけるよう、引き続き感染予防対策に取り組むとともに、日本を代表する震災津波学習拠点としての価値が確立されるよう、運営の更なる充実に努めていきたいと考えております。

本日は、今年度1回目の運営協議会ということで、昨年度の取組実績と今年度の事業計画についてこの後御説明させていただきます。委員の皆様には、忌憚のない御意見をいただき、今後の運営に活かしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

3 委員紹介

今年度から新たに就任した委員の方から、一言御挨拶をいただいた。

4 議 事

(1) 令和4年度取組実績について

(2) 令和5年度事業計画について

事務局から説明した後質疑を行った。質疑の内容は、以下のとおり。

(五味委員)

解説員が全部で10名いますが、新規で採用された方、継続している方を確認したい。

それとも、入れ替わりが多いのでしょうか。

また、年齢構成や雇用の形態なども教えていただきたい。

(事務局)

10名のうち8名は開館当時から、2名は開館後約1年経って採用されました。

20代が1名おりますが、60代が2名、他は40代から50代です。

県の会計年度任用職員の扱いで採用しており、1年間の会計年度で最大3年間まで更新できます。

最大3年間の勤務が完了すると退職扱いとなり、新たに求人をかけ、応募者に対する面接等の試験により採用します。

(五味委員)

解説員の方々は継続して経験を積んでいる方が多く、様々な研修も受け、知識やスキル、避難誘導のノウハウなどを身に着けたうえでガイドをしており、伝承館の日々の運営、ひいては震災の伝承にきわめて重要な役割を果たしています。にもかかわらず、現在の雇用の安定性を考えると、その条件では働き続けることが難しいというケースが出てくる可能性も懸念されます。長い目で見た時に、それは大きな損失になるのではないのでしょうか。

雇用のあり方や条件を工夫する余地はないのでしょうか。大変なことだと思いますが、敢えて申し上げます。

(越野委員)

1点目は、アンケートを取っているかどうか分かりませんが、伝承館に訪問した中で一番印象に残ったことは何かということを知りたい。

学校も小中高で違うのではないかと、一般の人も県内と県外で違うのではないかと思います。

2点目は、県外の自治体からの来館者が少ないのは何故か把握しているのか。

3点目は、企画展示の対象を絞っているのかどうかについて知りたい。

(事務局)

アンケート等については、参考資料2のとおり学校にアンケートを取っております。

その中で、見学して良かったこととして、津波の脅威について知ることができた、館内の展示が見やすかった、解説の内容が分かりやすかったといった評価をいただいております。

自治体職員については、印象としては様々なところから多くの方が来館されていると考えております。

企画展示の対象は、はっきりと対象を絞っているというよりは、小学6年生ぐらいから分かる内容で作っており、常設展示も同様です。

(越野委員)

県外の自治体職員など、教訓を得ようとする人たちがどのくらいいるのか伺います。

また、アンケートで良かった点と、印象に残った点というのは少し違う。

例えば、人と防災未来センターの地震のCGや和歌山県広川町の稲村の火祭り、3D津波映像など印象に残ると、次に「学んでみようかな」というきっかけになる。

きっかけになる印象を与えるものがあると良いが、伝承館にはそういう印象に残るものがあるのか。

自治体職員が教訓を持って帰るようにするには、どのように刷新していけば良いか。

全国で講演をやっていると「来て欲しい」と呼ばれるが、「実際に現地に行ってみて下さい」と言っている。

そこで、現地に来てもらった自治体職員に、どのように教訓を伝えていけるか、そのようなコンテンツがあるか。

(事務局)

学校へのアンケートの中で、特に良かった展示として圧倒的に挙がっているのがガイドダンスシアターであり、シアターの映像が最も重要なコンテンツの一つではないかと考えております。

また、ゾーン3の正常化バイアスの展示などについて、是非来館いただいて教訓として持って帰っていただければ良いと思っております。

学校アンケート以外にも、来館者アンケートを今後実施予定であり、アンケート内容をどのようにしたら良いか検討していきたいと考えております。

最後に、自治体職員の件ですが、資料に予約人数が入っており、昨年度は365人の予約をいただいております。

この件についても、どのように増やしたら良いか、引き続き考えていきたいと思っております。

(越野委員)

もう一つ、今日の会議もそうなのですが、音声聞きづらい。
5Gでの見学やYouTubeなど、システム環境を充実させた方がよい。

(南会長)

昨年度来館しているこの365人をターゲットに、調査はできないものでしょうか。
予約状況から名前など分かりそうなので、「何の目的で来たのか」とか「どういうことを活かせると思ったか」とか「どのような資料があったら良いと思ったか」などについて聞くと浮かび上がるかもしれない。
可能であれば検討していただきたい。

(木村委員)

令和4年度の事業報告書ですが、かなりのボリュームを全部やられたということで、本当に大変だったと思います。敬服します。
その中で、特にこれは良かったとか、特筆すべき事業がありましたら、お聞かせ願いたいというのの一つです。
もう一つは、今年3月から新型コロナウイルス感染症も大分状況が変わりましたが、特に今年のゴールデンウィークの状況が、昨年と比べてどうだったか、変わったところがあったか。
この2点をお聞かせ願えればと思います。

(事務局)

感触があった事業については、事業報告書10ページの教育普及事業「VRで体験～三陸の津波の歴史～」が突出して参加者が多かったです。
IBC岩手放送、岩手日報社が共同制作したVR動画です。
碑の記憶を体験してもらおうというものでしたが、興味を示される来館者の方が驚くほど多かったです。
小学校低学年ぐらいまではVRを付けると具合が悪くなる可能性があり、高学年以上という制限はありましたが、たくさんの方が体験して「非常に良かった」と好評をいただきました。
他にも、体験型のイベントでは、皆さん非常に楽しく参加され、「面白かった」という感想をいただいておりますので、これからも体験型の企画をできるだけ取り入れていきたいと考えております。
今年度のゴールデンウィークについては、昨年と比べて期間が短かったということもありましたが、今年度の4月から直近までのデータを見ますと、来館者がおおよそ15%程度増加しております。
コロナ5類移行と、全国植樹祭でのマスクミへの露出の影響もあったと思いますが、昨年度と比較して堅調に推移していると考えております。

(木村委員)

数字より全体の印象として伺いたい。
例えば、昨年度であれば少人数のグループが多かったが、今年度は大型の団体が多いなど、印象として以前と違ったところ、変わったところが何かあったのでしょうか。

(事務局)

今年は、コロナの制限が緩和された3月以降、マスク着用が任意でよいと国から発表があった頃が、印象が変わったタイミングだったと思います。
マスクを外して入ってくる方も含めて、昨年より気兼ねなく来館する方が多くなった印象がありますし、外国の方も増えました。
世界中からお客様が来館されていることを、3月以降、非常に感じております。
また、全国植樹祭が全国的に報道されたということもあり、(全国植樹祭が開催された)6月

4日以降、非常に問い合わせが増えているということも併せてお知らせします。

(南会長)

天皇皇后両陛下が全国植樹祭に来られたこと、公園や伝承館に来られたことを記録として残し、その重要性を大切にされた方が良いのではないかと。

どこまでできるか、失礼なことになっても困る訳ですが、大切に伝えていくことが、発信力につながるかもしれない。

そういうことを意図して訪ねて来ていただいたように思いますし、更に広がっていく方向に持っていけたら良いと思います。

どういう取り扱いができるかは、県の方で検討いただけたらと思います。

(事務局)

全国植樹祭ということで、式典の中では天皇皇后両陛下が記念植樹をされております。

今は別なところで養生しているということで、しかるべき時に公園の中のしかるべき場所に設置するという話を聞いております。

また、御来館いただいておりますので、その記録と言いますか、会長がおっしゃったような形で何かできないか内部でも検討しているところであり、何とか実現できれば良いと思っております。

(金野委員)

コロナの関係で団体予約が増えてきたことに相反して、参考2の最後のページに、修学旅行に関して利用が減ることが心配される、と書かれてありますが、私もそう思います。

小学校は、県内の修学旅行から隣接している宮城へ行くケースが増えてきました。

中学校は、東北の旅行から関東に行くケースがもう出ており、昔に戻った形です。

それを踏まえると、団体での修学旅行の利用者の減少が懸念されるのではないかと思います。

資料には、「仙台方面に向かう学校が多いようだ」とありますが、「宮城にも伝承館があるので、そちらに行けば済むのではないかと」言われたいためにも、岩手のこの祈念公園の津波伝承館の良さを発信するというようなことを考えているのか伺いたい。

(事務局)

教育旅行、特に修学旅行の当面の動きについては、委員のお話したとおりと考えておりますが、伝承館に限った話ではなく、県全体の受け入れの傾向として言われていると認識しております。

そのような状況の中で、一時的に変更していただいたところが皆離れてしまうのではなく、継続して選んでいただけるよう取り組んでいきたいと考えております。

現在も、県内外から多くの学校に来ていただいております、引率の校長先生からお話を伺うと、コロナが収まって県外に戻る、例えば北海道や仙台、東京に戻る学校もある中で、復興教育や防災教育が非常に重要だと認識している先生が、強い想いを持って引き続き選んで来ていただいているという印象を受けております。

一方で、実際に来て良かったというお話もお聞きしておりますので、復興教育への想いを先生方に持ち続けていただけるような働き掛けを継続して行っていく必要があると考えております。

また、開館以来、学校訪問や教員向けの研修会を行っており、昨年からは野外活動センターと共同共催という形での研修会も開催しております。

例えば、中学校の修学旅行で、一時、東京方面から伝承館に行き先を切り換えていた学校が、また東京に戻りつつある中で、校外学習ということで1泊2日の研修を陸前高田市の野外活動センターに宿泊して、伝承館にも来ていただくという学校も出てきておりますので、そのような形を更に広げていきたいと昨年から取り組んでいるところです。

学校関係への働き掛けについては、もっと他のやり方がないか、例えばブロックごとの校長会議の際に出向いて説明をさせていただくなど、沿岸南部教育事務所や県教育委員会などと相談しながら、どういった形で説明をすると効率的に発信ができるか、併せて考えていきたいと考えております。

(多田委員)

コロナ終息後は修学旅行が減ってくると思いますが、学校教育の場で、例えばオンラインで解説員が解説するような取組は今後考えておりますでしょうか。

(事務局)

伝承館がオープンした当初より、基本的には現地に来て、目で見て、肌で感じていただくよう、取り組んできたところです。

オンラインでの解説については、積極的に増やしていこうという取組は行っておりませんが、事情や要望に応じて、名古屋市とオンラインでつなげて解説などを行っております。

震災からの教訓を発信するという観点と、当館に実際に足を運んでいただくためのきっかけづくりと、その両面でオンラインでの解説も続けていきたいと考えております。

(山本委員)

先ほど気仙沼にも石巻にも伝承施設があるという話がありましたが、気仙沼にあるから陸前高田に行かなくてもいいと思っている方は、それほど多くないと思います。

気仙沼で見て感じたものを、陸前高田に行ったら別の考え方をするかもしれませんが、伝承施設を回ってみようとする方々は、1か所だけではなく複数の施設を回ろうと考えている方が多いと思います。

そのニーズに応えられるような情報提供は、果たして行われているのでしょうか。

例えば、お客様の取り合いをするのはもってのほかで、逆にそのお客様を紹介してあげるといった協力関係のような事例があればお聞かせいただけますか。

(事務局)

それぞれ伝承施設のリーフレットをお互いに配布し紹介しております。

SNSでは、ツイッターで他の施設の書き込みをリツイートしたり、当館だけではなく、他の伝承施設での取組も紹介されるような工夫もしております。

教育旅行の売り込みの中で、例えば県観光協会や三陸DMOセンターが震災伝承をテーマにした時に、当館や他の施設も紹介しております。

学校によっては、伝承館だけを目的に来るケースと、様々な震災伝承施設を回るケースが見受けられます。

仙台市の中学校が来館した際、「仙台の方にも震災伝承施設が色々あるのにどうして当館に来られたのですか」とお聞きしたところ「気仙沼の方と併せて当館も見に来た」とのお話がありました。

また、県内の学校の場合は、伝承館を見て三陸鉄道の盛から釜石まで震災学習列車を利用するといった流れもありますので、横の連携についてこれからももっとしっかり取り組んでいきたいと考えております。

(山本委員)

特に、伝承館のエントランス横の伝承施設マップの充実ぶりは、本当に特筆すべきものがあると思うので、ここの展示だけではなく、もっと積極的に伝承マップの役割などに注目していただけるような努力とかあったら良いのではないかと思います。

(中野委員)

企業研修のニーズを考える上で、実際訪れた団体や企業の感想などを教えていただきたい。

(事務局)

断片的なお話しかできないのですが、新入社員研修で来られた県内の新聞社さんにお話をお聞きすると、震災報道をやりたくて県外出身だが岩手に就職したという方もいるとのことであり、熱心に展示内容を御覧になっていました。

県外の企業からは、工場での現場作業に従事する方が多く来館されましたが、とても熱心に見ていただき、こちらの展示の思いが伝わっている感じを受けました。

今後、アンケートを実施する中で、企業の感想やニーズもしっかり把握していければと考えております。

(柴山委員)

三陸DMOセンターとFAM(*)の連携がすごく良く、いいなと思って見ておりました。

ただし、まだ関西、四国が手薄なところがあると思います。

(*)familiarization tour/familiarization tripの略。業界関係者、メディアを対象とした下見、モニタツアー、プロモーションツアー

南海トラフもありますし、北海道千島海溝、日本海溝もありますので、その四国や関西地方とFAMで呼んでJTBや他の旅行会社を呼んでいただく。

そこが修学旅行の集客としては一番大きくなりますし、大変だと思いますが、ぜひお願いしたい。

インバウンドがかなり戻ってきておりますが、ホームページが多言語化されていないところ、SNS也多言語化発信をされていないところがあると思います。

英語解説員、中国語解説員がいますので、SNSやインスタグラム、ツイッター、フェイスブックなどを、英語発信または中国語発信をしていただくと注目度も上がりますので、ぜひ多言語で発信をしていただきたい。

今、盛岡がすごく盛り上がっていますので、伝承館だけでなく他の施設と一緒に盛岡で何か展示をして、海外の人が来たときに、こういうところもあるというところを見せていけると良い。

県庁の1階エントランスはスペースがあるので、展示をしたり、県庁でできるもの、岩手県としてできるものを行っていただきたい。

リピート率に関しては、県外20%のリピート率というのは、あまりよろしくない感じがする。

コロナの影響もあるかもしれないが、フォローアップをする、リピートをしていただくためにお礼状を書く、パンフレットをお送りして「ぜひ機会がありましたら来てください」という案内を出しても良いと思う。

また、県教育委員会が、各都道府県の教育委員会を通して案内を出し、来ていただけるようパンフレット等を配っていただけると大変ありがたいと思います。

アンケートのとり方ですが、参考資料2のアンケートは、個人の考えではなく、学校の先生が答えているということと、特に良かった展示については「記入例：ガイダンスシアター」と最初に出ているので、ガイダンスシアターと書きやすい。

誘導尋問に近い感じが出る可能性があるので、あまり参考にならないと思います。

ゾーン1、2、3は、私たちやよく行く人は分かるが、一般の人はゾーンをあまり意識していないと思います。

案内図を付けて「どこがいいですか」と丸を付けてもらうようにすれば、もう少し良くなるのではないかと。

学会誘致もしていただければと思います。

ちょうど今、陸前高田市に学会で結構来ていただき、イベントなどをやっていただいております。

特に地震関係や災害関係の学会は、よく陸前高田市に来ております。

毎年いくつかの学会が陸前高田市で学会を開いていますので、陸前高田市と連携したり誘致したり、何かできればと思っております。

熊本の地震ミュージアムが今年できます。

熊本地震の震災ミュージアムであるという意味合いがかなり大きく、市町村連携した中越回廊(新潟県中越地震の伝承館の連携を言う)のような形でできます。

その中の一番の中央施設が、阿蘇にできます。

熊本は、すごく東日本大震災の影響を受けて、様々な対応をしてきたというのは勿論あります。

熊本と連携しながら、相互で学ぶべきものは数多くあります。

お互いに宣伝をしたり協定を結んだり、新しい施設なので連携協定の中に入れていただければ

と思います。

(中野委員)

私どもでは、大阪で開催される教育旅行の商談会に参加します。また、10月にツーリズムEXPOが大阪で開かれ、出展しますので、そのような機会に伝承館を含め、沿岸部のPRをしていきたいと思います。

(山本委員)

SNS、特にインスタグラムについて言及された部分があったかと思いますが、インスタグラムのアカウントは、今、どなたが管理して、情報発信の頻度はどうなっていますか。

具体的にその数など把握しているのか、どなたか管理するということはないのですか。

開館からずっと見ていますが、明らかにその投稿数が減っているのではないかと思います。質問しました。

今日のような天気がいい時は見栄えもいいですし、それを見て来られる方々も少なくないのではと思います。

(事務局)

ツイッター、フェイスブック、インスタグラムですが、主として運用している一番投稿数が多いのはツイッターです。

インスタグラムについては、それほど投稿しておりません。

管理は、私共がしております。

天気の様子などは、ツイッターに画像を上げて頻繁に投稿しております。

「今日はこのような天気なので、どうぞいらっしゃってください」という形でやらせていただいております。

(南会長)

事業報告していただくと、ずっと長い積み重ねで作られてきたものであり、磨かれてきたものだと思います。

色々な扉を開いたり叩いたりやってみて、先ほどの修学旅行の学校教育の話一つにしても、様々なアプローチをしてみて、その中で今できていることが分かっている。

これからも、この資料に残って記されているものが全てではなく、この計画書を実現するためにはもっと何倍も扉を叩いていくことになると思います。

これまでの努力に感謝申し上げたいですし、これからもまたお願いしますということを申し上げます。

そして、ここまでたくさんの方が来てくれて、何かを受け止めてくれるとすれば、それが伝承館の本当の肝というか大切なところであって、受け止めて持って帰ってもらうことが大事だと思います。

来館される方は、被災した方もおられれば、遠くからの方もおられる。

来られる人の多様性に対応する解説員の人たちや伝承館に迎える人たちが、それぞれの立場で丁寧な解説をしてくださっていることは、よく伺っております。

そうした心遣いの一つひとつが、ここを訪ねた方に伝わるのだと思います。

私は顔を覚えられているところもあるかもしれませんが、受付一つにしても、とても丁寧に対応していただいているところがありますし、そうして築いてきた文化を大事にして欲しいと思います。

これがこの伝承館の核を作っていますし、たくさんの人や陛下まで訪ねてくれるような場になっているわけですので、この伝承館の立ち位置、役割というのを大事にして欲しいと思います。

本日、多方面な方がこうして参加して、様々な立場からのアプローチが進んでいること自体も一つの試みでもあり、素晴らしいことだと思います。

是非このような形をつなぎながら、次の時代に残して行って欲しいですし、備えになってつながって欲しいと思います。

以上、私から一言申し上げます。

4 議 事

(3) その他

(南会長)

それでは議事3ですが、最後の「その他」です。
各委員の方々から御発言等ございますでしょうか。
よろしいでしょうか。
それでは、議事は以上ということになります。
御協力、誠にありがとうございました。
進行を事務局にお返しいたします。

(澤田副館長)

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、長時間にわたり御出席いただき、御審議いただきまして、大変ありがとうございました。

次回の開催につきましては、11月頃に開催していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

後ほど、日程調整をさせていただきたいと思っております。

本日、様々な御意見を頂戴いただきましたが、いただいた御意見につきましては、館内展示であるとか、解説、各種事業、様々な御意見を頂戴したところでございますが、こうした御意見を踏まえながら、今後取り組んで参りたいと考えております。

引き続き御協力くださいますよう、よろしく願いいたします。

本日はありがとうございました。

5 閉 会

齋藤事業課長が閉会を宣言した。